

静かな干潟

■台風の影響か 冬越しの準備か

今回の調査では、あまり生物を採集・観察することができなかった。投網による採集ではネズミゴチ(Fig.1)、ヒメハゼ(Fig.2)、ボラが少数採集できたのみで、干潟内には先月同様に泥が堆積していた(レポート77号参照)。手網を使用して橋桁や石の周りでの採集も試みたが、小型のケフサイソガニが少数採集できたのみである。昨年までの観察では、11月上旬の時期には魚類やカニなどの節足動物を採集・観察できたが、今年は生物の数が少ないと感じられる。これが先月の台風による泥の堆積の影響なのか、早めに冬に備え深場へ移動したのかは現段階では判断しかねる。ただし、台風による泥の堆積の影響があったとしても、震災の津波から現状まで回復したことを考えれば、春にはまたにぎやかな姿を見せてくれる可能性はある。

なお、陸にある転石の下では小型のケフサイソガニやタマキビが、また導流堤基部の新たな泥地(レポート73号参照)ではヤマトオサガニを確認できた。



Fig.1 ネズミゴチ



Fig.2 ヒメハゼ

■鳥もまた少ない

冬鳥が飛来するにはまだ早い時期でもあり、鳥類もあまり観察できなかった。数少ない鳥類は干潟よりも周囲にある養魚場だった池や七北田川河口域で観察された。写真の他にシロチドリやシギの仲間が観察され、今後冬に向けて冬鳥の来訪に期待したい。



Fig.3 ヒドリガモ

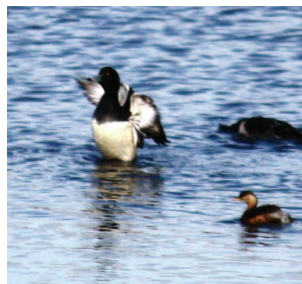


Fig.4 スズガモ

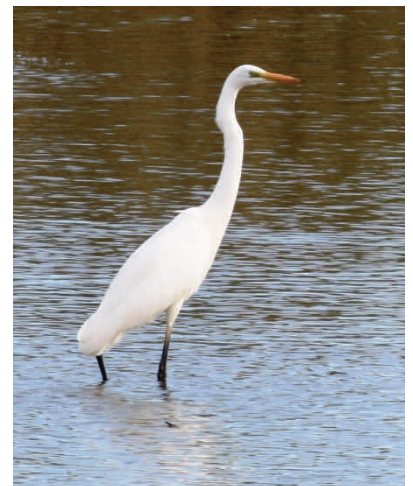


Fig.5 ダイサギ



Fig.6 ウの群れ

(佐藤 賢治)